

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成31年4月25日 (2019.4.25)

【公開番号】特開2019-37266(P2019-37266A)

【公開日】平成31年3月14日 (2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報2019-010

【出願番号】特願2017-159076(P2017-159076)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成31年1月23日 (2019.1.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

判定の結果に基づいて図柄変動を行う図柄変動手段と、

前記図柄変動にて所定の態様が現れると、遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、  
演出動作しうる可動装飾体と、

前記図柄変動に対応する復元時期が到来したことを契機として正常状態にない可動装飾体  
に復元動作を行わせうる復元実行手段と

を備え、

前記可動装飾体として、第 1 可動装飾体及び第 2 可動装飾体を含む複数の可動装飾体が  
用意されており、

前記第 1 可動装飾体が復元動作を実行しており且つ前記第 2 可動装飾体が正常状態であ  
るときに前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した場合、前記復元動作を実行し  
ている状態にある前記第 1 可動装飾体については、該新たに到来した復元時期を契機とし  
て該復元動作のやり直しを行うことなくこれを継続して実行可能であり、

前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した時点において正常状態であった前記  
第 2 可動装飾体が、前記第 1 可動装飾体が復元動作を継続して実行しているなかで正常状  
態でなくなった場合、該第 2 可動装飾体は、当該第 2 可動装飾体が正常状態ではなくなっ  
てから前記図柄変動に対応する復元時期が一度も到来していない状況であったとしても、  
前記第 1 可動装飾体の復元動作が終了したことに基づいて復元動作を開始可能であり、

さらに、

前記第 1 可動装飾体は、発光可能に設けられるものであり、

前記第 1 可動装飾体が復元動作を実行している状態にある場合であっても、該第 1 可動  
装飾体を演出発光させることは可能であり、

さらに、

前記図柄変動に対応する復元時期が到来したことを契機として正常状態にない前記第 1  
可動装飾体が復元動作を行った結果、正常状態に復帰することに失敗した場合であっても  
、正常状態に復帰することに失敗した状態にある当該第 1 可動装飾体を演出発光させるこ  
とは可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

このような従来の遊技機では、遊技興趣の低下が懸念される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

手段 1：判定の結果に基づいて図柄変動を行う図柄変動手段と、

前記図柄変動にて所定の態様が現れると、遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、  
演出動作しうる可動装飾体と、

前記図柄変動に対応する復元時期が到来したことを契機として正常状態にない可動装飾  
体に復元動作を行わせうる復元実行手段と

を備え、

前記可動装飾体として、第 1 可動装飾体及び第 2 可動装飾体を含む複数の可動装飾体が  
用意されており、

前記第 1 可動装飾体が復元動作を実行しており且つ前記第 2 可動装飾体が正常状態であ  
るときに前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した場合、前記復元動作を実行し  
ている状態にある前記第 1 可動装飾体については、該新たに到来した復元時期を契機とし  
て該復元動作のやり直しを行うことなくこれを継続して実行可能であり、

前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した時点において正常状態であった前記  
第 2 可動装飾体が、前記第 1 可動装飾体が復元動作を継続して実行しているなかで正常状  
態でなくなった場合、該第 2 可動装飾体は、当該第 2 可動装飾体が正常状態ではなくなっ  
てから前記図柄変動に対応する復元時期が一度も到来していない状況であったとしても、  
前記第 1 可動装飾体の復元動作が終了したことに基づいて復元動作を開始可能であり、

さらに、

前記第 1 可動装飾体は、発光可能に設けられるものであり、

前記第 1 可動装飾体が復元動作を実行している状態にある場合であっても、該第 1 可動  
装飾体を演出発光させることは可能であり、

さらに、

前記図柄変動に対応する復元時期が到来したことを契機として正常状態にない前記第 1  
可動装飾体が復元動作を行った結果、正常状態に復帰することに失敗した場合であっても  
、正常状態に復帰することに失敗した状態にある当該第 1 可動装飾体を演出発光させるこ  
とは可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】